

大石初太郎
上村幸雄 編

方言と標準語

——日本語方言学概説

筑摩書房

方言と標準語―日本語方言学概説―
昭和五〇年一月一五日発行

編者 大石初太郎
上村幸雄

発行者 井上達三

発行所

東京都千代田区神田小川町二ノ八
筑摩書房

郵便番号 一〇一―九一
電話 東京(291)七六五―(代表)
振替 東京四一―二三
印刷 大日本法令印刷
製本 矢嶋製本

落丁・乱丁本はお取替いたします

(分類) 1081 (製品) 82067 (出版社) 4604

Printed in Japan

まえがき

われわれは、昭和四十一年・四十二年度に、全国的な話しことば資料の収集をおもな目的とする共同研究を計画し、文部省科学研究費（総合研究）の交付を受けた。その際、この仕事の成果を利用して、現在の研究水準の上に立つ日本語方言の概観、日本語方言学の概説、あわせて標準語教育のために一書をまとめようと発起した。そのため、総合研究のメンバーのほか二、三人の参加を求め、全体的計画のもとに執筆分担を定めて、見られるとおりのものを書きあげた。

最初の構想に比べて、一つには、標準語の側面がやや手薄になり、もう一つには、分担執筆者の裁量を尊重したために、種々統一を欠くところがいささか目立つものになった。しかし、ともかくも、特色をもつ一書がここに出来あがったと考えている。

近年、方言研究の進展にはめざましいものがある。方法論の整備とともに、方言事実の解明整理は、日に月に蓄積を増しつつある。しかもなお、日本語の全野を見渡そうとするときは、残されているものがきわめて大きい。新しく方言研究に志す人々の数も少なくなき、そういう人々の今後のはたらきに期待が寄せられるが、本書がその有用な手引きとなることを念願する。

また、日本語の健全な発達のために、方言と標準語とのかかわりに関する確かな認識をもった国語教育が、全国の国語教室でなされるようになることを望みたい。そのためにも本書が役立ってほしいという希望をもってい

る。

ついでに言えば、文部省科学研究費を受けてわれわれが行った仕事の成果（その一部は国立国語研究所言語行動研究部第三研究室に保管されている）はささやかなものだったが、この種の仕事の意味は大きいと考える。日本語研究の将来のために、今日、全国の方言を収録し資料化することが、きわめて重要な仕事として望まれる。近年、国立国語研究所の仕事の中でもこれが行われてきたが、さらにこの種の事業が大きく進められることを願わずにはいられない。

本書の刊行は、最初の計画からは数年おくれた。原稿の出が一、二大幅におくれたことがおもな原因だった。こうしたずれによる不備を埋めるために、中途、昭和四十七年十一月ごろ、各自原稿に手直しを加えるという手順をふんだ。またさらに、校正段階で手入れをせざるをえないものも生じた。早く執筆を終えた人々の迷惑に関しては、取りまとめ役としても、強く責任を感じるしだいである。

終りに、原稿のおくれと特殊なめんどろな印刷のために格別の労をわずらわした筑摩書房の関係担当の各氏に、謝意を表する。

なお、本書の企画段階から幹事役に従った上村幸雄は、出張中の西ドイツ、ポツダム市で、この成書を手にすることになる。

昭和四十九年八月

大石初太郎

目次

まえがき

大石初太郎

第一部 方言と標準語

一 日本語の方言、共通語、標準語	上村幸雄	5
------------------	------	---

1 方言という概念について	5
2 日本語の方言の分布と下位区分	10
3 日本語の方言の成立過程	20
4 現代にいたるまでの日本語の発展	31

二 東京の話しことば	大石初太郎	41
------------	-------	----

1 東京人の使っていることば	42
2 東京語に対する批判	48
3 東京語と標準語	54

三 話しことばと日常生活

宮地 裕……………61

1 「イル」と「オル」……………61

2 話しことばのラング的特性……………68

3 話しことばの表現的特性……………72

4 話しことばの研究と教育……………73

第二部 方言のくみたて

一 方言の音声とアクセント

加藤正信……………77

1 音声と音韻……………77

2 音素と音韻体系……………80

3 対応、地理的分布、歴史の問題……………86

4 イとエの区別……………88

5 シとスなどの区別……………91

6 連母音 ai, ae……………93

7 有声化と鼻音化……………95

8 クワ・グワ……………98

9	セなどの音声	100
10	特殊音と拍の構造	101
11	アクセント	102

二 方言の文法

上村幸雄

1	まえおき	110
2	文法的な手づき	111
3	名詞	114
4	動詞	118
5	形容詞、むすび(copula)	125

三 方言の地理的分布

徳川宗賢

——特に分布の内容について——		
	はじめに	129
1	言語外要因との関係	130
2	調査と作図	140
3	言語の内部の問題	144
	おわりに	153

第三部 各地の方言

一 北海道と東北北部の方言

北条忠雄……………157

〈北海道〉

- | | | |
|---|-----------------|-----|
| 1 | 北海道方言…………… | 157 |
| 2 | 道南方言の北奥羽要素…………… | 159 |
| 3 | 福島町白符…………… | 161 |

〈東北北部〉

- | | | |
|---|-----------------------|-----|
| 1 | 北奥羽方言…………… | 165 |
| 2 | 理由表現からみた北奥羽方言の諸相…………… | 170 |
| 3 | 音 声…………… | 176 |
| 4 | アクセント…………… | 179 |
| 5 | 動 詞…………… | 181 |
| 6 | 形容詞…………… | 185 |
| 7 | 助詞・助動詞を中心とする諸表現…………… | 188 |
| 8 | 擬音(態)語―その創造と技巧―…………… | 195 |

二 東北南部と関東の方言

飯豊毅一……………200

1	あらし	200
---	-----	-----

2	音 声	202
---	-----	-----

イ	母音に関する現象	202
---	----------	-----

ロ	子音・半母音に関する現象	204
---	--------------	-----

ハ	はねる音・つまる音に関する現象	208
---	-----------------	-----

ニ	音節構造一般に関する現象	209
---	--------------	-----

ホ	アクセント等に関する現象	211
---	--------------	-----

3	文 法	212
---	-----	-----

イ	動詞およびそれにつく助動詞・助詞	212
---	------------------	-----

ロ	形容詞・形容動詞およびそれにつく助動詞・助詞	218
---	------------------------	-----

ハ	名詞およびそれにつく助詞	220
---	--------------	-----

4	語 彙	221
---	-----	-----

5	その他	224
---	-----	-----

三 北陸の方言

岩井隆盛……………227

1	あらし	227
---	-----	-----

イ	方言の特徴……………	227
ロ	下位区分……………	228
ハ	標準語教育(その一 態度について)……………	229
2	音 声……………	230
イ	母 音……………	231
ロ	子 音……………	232
ハ	音 節……………	234
ニ	アクセント……………	235
ホ	標準語教育(その二 音声について)……………	235
3	文 法……………	236
イ	用言と補助用言……………	236
ロ	用言の活用と助動詞……………	237
ハ	助 詞……………	238
ニ	敬 語……………	240
ホ	標準語教育(その三 文法について)……………	241
4	語 彙……………	242
イ	その特徴……………	242
ロ	単語の分布……………	243

ハ 標準語教育（その四 語彙について）	243
---------------------	-----

四 東海の方言	南不二男	247
---------	------	-----

1 概 観	247
-------	-----

2 音 韻	251
-------	-----

イ 「アイ・オイ・ウイ」などの母音連続	251
---------------------	-----

ロ 昔のア段の音+ウの母音	253
---------------	-----

ハ ガ行鼻濁音	254
---------	-----

ニ アクセント	254
---------	-----

3 文 法	256
-------	-----

イ 動詞打ち消し形	256
-----------	-----

ロ 形容詞連用形	257
----------	-----

ハ 「理由」の意味を表わす接続助詞	258
-------------------	-----

五 近畿の方言	奥村三雄	264
---------	------	-----

1 あらまし	264
--------	-----

標準語教育の問題点	269
-----------	-----

2 音 声	272
-------	-----

3	アクセント	275
4	文法	278
	イ 動詞の活用	278
	ロ 形容詞の活用	282
	ハ 形容動詞の活用	284
	ニ 助動詞	286
5	語彙	288
六 中国の方言		
	神部宏泰	295
1	あらまし	295
2	音 声	297
	イ 母 音	297
	ロ 子 音	298
	ハ 撥 音	300
	ニ 拗 音	301
	ホ アクセント	301
3	文 法	303
	イ 動詞と助動詞・助詞	303

七 四国の方言

土居重俊……………316

ロ	形容詞・形容動詞……………	305
ハ	名詞と助動詞・助詞……………	306
ニ	文末詞……………	307
4	語彙……………	309
5	その他……………	311

1	あらまし……………	316
2	音 声……………	317
	イ 母音に関する現象……………	317
	ロ 子音・半母音に関する現象……………	318
	ハ はねる音・つまる音に関する現象……………	320
	ニ その他音節構造一般に関する現象……………	321
	ホ アクセントなどに関する現象……………	323
3	文 法……………	324
	イ 動詞およびそれにつく補助用言・助動詞・助詞……………	324
	ロ 形容詞・形容動詞およびそれにつく 補助用言・助動詞・助詞……………	326

八 九州の方言

上村孝二……………336

ハ	述語の名詞につく補助用言・助動詞・助詞……………	327
ニ	名詞およびそれにつく助詞……………	328
ホ	その他……………	328
4	語彙……………	329
5	その他……………	331
1	あらまし……………	336
2	音韻……………	338
	イ母音……………	339
	ロ子音と音節……………	341
3	アクセント……………	344
4	文法……………	347
	イ動詞……………	347
	ロ形容詞……………	348
	ハ形容動詞……………	349
	ニ助動詞……………	350
	ホ助詞……………	355

5	語彙	358
---	----	-----

九 琉球の方言

外間守善

1	あらまし	362
	イ 琉球方言とその下位区分	362
	ロ 標準語教育の歴史	364
2	音声	373
	イ 音声およびアクセント上の特徴	373
	ロ 標準語教育上の問題点	376
3	文法	378
	イ 文法上の特徴	378
	ロ 標準語教育上の問題点	383
4	語彙	385
	イ 語彙上の特徴	385
	ロ 標準語教育上の問題点	387

第四部 各地方言のテキスト

1	秋田の方言	3
---	-------	---

北条忠雄編

2	栃木の方言	飯豊毅一編……………8
3	八丈島の方言	上村幸雄編……………14
4	能登の方言	岩井隆盛編……………19
5	尾張の方言	山田達也編……………23
6	京都の方言	奥村三雄編……………30
7	出雲の方言	南不二男編……………36
8	隠岐の方言	神部宏泰編……………44
9	土佐の方言	土居重俊編……………51
10	薩摩の方言	上村孝二編……………56
11	沖縄の方言	上村幸雄編……………62
	執筆者紹介	